東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 5 月 7 日

舌を守ること

ムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、存在の中で精神的にも物理的にも最も尊いものとして人間を創造されました。人間に考える能力と話す能力を特別に与えられ、そして考えたことを表現するために特別に言葉を与えました。

崇高なるアッラーは、言葉が人にとって重要な恵みであることを次の節において『われは、かれのために両目を創ったではないか、また一つの舌と二つの唇を』[1] と示されています。また舌によって語ったすべての言葉は天使によって記録されていることを次のように表現されています。『かれがまだ一言も言わないのに、かれの傍の看守は（記録の）準備を整えている』[2] さらにクルアーンにおいて、舌は、最後の審判の日、私達の不利または有利な立証をすることが強調されています。[3]

大切な皆様。舌はある意味で鍵のようです。それによって善の扉も悪の扉も開けることができます。そのため口から出そうとする言葉に対して注意し、理性や信仰の基準に計った後で語るべきです。考えずに話した言葉は、ときどき失望や立腹そして喧嘩の理由になること、さらに様々な醜いことの扉を開け、人間関係を損なう理由になることを忘れないようにするべきです。

したがって、常に良い言葉を使い、適当な時期や場所でない限り、何でもしゃべるべきではありません。私達の創造主は、このことについて次のように仰せられています。『われのしもべに告げなさい。「かれら（ムスリム）は何事でも最も丁重に物を言いなさい。」悪魔は、かれら（不信者）との間に（紛争の）種を蒔く。本当に悪魔は人間の公然の敵である』[4]

崇高なるアッラーは、アン・ナフル章で英知と良い話し方で、人々を宗教に招くことを命じ、良い話し方の大切さを示しています。[5] そして正しい行いと善い言葉は、かれの許に登って行くことを明らかにし、[6]正しい行いはそれを高めることを教えられておられます。さらに舌で人々を中傷する者を否定しています。[7]

敬愛する預言者（彼に平安あれ）は、人の最も多く罪を犯す器官が舌であることを指摘し、そしてアッラーの御許で最も尊いムスリムは、人々が、彼の振る舞いや言葉に安心できる人のことであると述べました。教友の一人が、「アッラーの使徒よ、私がきちんと守るべきアドバイスを教えていただけますか。というと我々の預言者は、「私の持主は、アッラーですと言いなさい。そして、正しい道を堅く守れ」と述べられました。教友は、再び訊きました「罪を犯すことに関して私にとって最も注意すべきことは何ですか」という質問に対して、敬愛する預言者は、手で舌を示しつつ「これです」[8]と述べた。

ムスリムの皆様。私達の宗教は、正しくよい話し方を施しと認め、そのような言葉はアッラーからの報償をもらうきっかけになることを教えています。したがってムスリムは、良い言葉を使い、笑顔をもって、優しく話し、そして誰も傷つけてはいけません。これこそがムスリムに相応しいことです。中傷すること、嘘を言うこと、悪口をいうこと、噂話をすること、人の仲を裂くこと、仲たがいをさせたり、私達の宗教にとって禁じられている言葉を使いことや耳を傾けることを必ず避けるべきで、そして次のクルアーンの節を常に忘れないように留意して置きましょう。

『慈悲深き御方のしもべたちは、謙虚に地上を歩く者、また無知の徒（多神教徒）が話しかけても、「平安あれ。」と（挨拶して）言う者である』『嘘の証言をしない者、また無駄話をしている側を通る時も自重して通り過ぎる者』[9]

---

[1] 第 90 章 8-9 節.
[2] 第 50 章 18 節.
[3] 第 24 章 24 節.
[4] 第 17 章 53 節.
[5] 第 16 章 125 節.
[6] 第 25 章 10 節.
[7] 第 33 章 19 節 ; 第 104 章 1-2 節.
[8] リヤードゥッサーリヒーン, 524.
[9] 第 25 章 63.72 節.